

## 第1分科会

### 人権確立をめざす教育の創造

部落問題をはじめとするさまざまな人権問題の解決をめざす教育をどう創造しているか

#### ①分散会

## I はじめに

分散会会場である滋賀朝鮮初級学校の会場副責任者からの挨拶の中で、長い全人教の歴史の中でも朝鮮学校が分科会場となるのは初めてで大会運営に向けて準備をしてきたことが紹介された。

分科会基調は、討議課題をもとに提案され、開催地である滋賀県の現状と課題もとり上げて説明するとともに、地元協力者の差別のない社会をめざそうという思いも投げかけられた。

討議の柱を確認した後、報告・討論に入った。

## II 報告及び質疑討論の概要

### 一報告1-⑱

リコちゃんは、小さいけんできんのよね

(愛媛県人教)

#### 一主な質疑と意見一

**鳥取** この経験を生かして次に同じような言葉を聞いた時に先生はどうするのか。

**報告者** 同じように答える。子どもの表情、態度を見てこれからどうしていくかを考える。

**三重** 歩行器を使って歩く子どもを「ミッキーマウスみたいな歩き方」と言った子どもに「どうしてそう思ったの」と問い返した。「小さいから…」と言うケンさんはどう思っていたのか。また、職員会でどんな返し方があがったのか。

**報告者** 去年も同じようなことを聞いて、「小さいから」や「これからできるようになるかな」と答えてしまって、それはどうだったのかと考えた。

**大阪** 保育園からの引継ぎはどう考えているのか。

**報告者** いろいろな専門機関とつながっている。小学校のコーディネーターの先生ともつながって就学へ向けて取り組んでいる。

**愛媛** (就学先の小学校校長) リコさんといろいろな交流を持ち、保護者との話ももって、1年生からのことを考えている。補聴器のことや聞こえの学習等を話しながら保護者の不安を取り除いたりリコさんの安定につながったりしていきたい。入学してから課題が出てきたら、その都度本人の願い、保護者の思いを大切にしながら関わってきたい。

**愛媛** 就学前教育が人権教育の基礎をつくる。保護者が最初に差別に出会うのが就学前で、弱い立

場のものが悩みを話し合える。市では、就学前から大人まで人権・同和教育をとおしてどこへ行っても同じ思いでつながっていこうと統一目標を決めて取り組んでいる。

**滋賀** まず、お母さんが将来働ける力と言われたことに親との関係性を築かれているのがわかる。次に、言うてはいけいではなく言える教育をして、それを拾って学び続ける職員集団ができている。また、小学校との連携がうまくなされている。園でコーディネーターをしていると、引き継いだはずのことが伝わっていないことがある。行事だけの連携で終わっていないかが気になる。

**愛媛** 園と小学校が近くであればよいが、離れているところは難しい。小学校の先生も今は若返って忙しくて悩んでいるし、電話1本でつながるようなほんとうの連携ができていない。小学校との連携を深めながら、就学前から保護者に人権・同和教育は自分たちの思いにつながるのだと伝えて、先生だけに頼らずPTA人権部等でもやっていくことが大事である。

### 一報告2-⑳

やんちゃでかしこくやさしい子どもに育てよう  
～大人のまなざし～

(滋賀県人教)

#### 一主な質疑と意見一

**愛媛** 今から25年ほど前に、子どもに好きなことだけをやらせる教育がはやったが、その弊害として、小学校へ入った時に子どもが学校生活に適応できず学級崩壊が起こったという報告が相次いだ。そのようなことはないか。

**報告者** 昨年度、保育所保育指針が変わった。子どもたちが自分で遊びを見つけて友だちと関係性を築くような保育をめざしている。担任が苦勞しているところはあるが、子どもを否定的に見ず、寄り添って保育をすることで、結果的に人の話をよく聞くようになっている。自己肯定感、満足感が育っている。

**滋賀** (就学先の小学校校長) 小学校と園との交流をしている。入学当時は学校生活になじむのに時間がかかるが、徐々に適応できるようになっている。

**滋賀** 保護者への啓発はどうしているのか。就学前の子どもたちにできるところでの話をどうしているのか。スポーツによる弊害があるが、サッカーをすることで「人権」はどう扱われているのか。

**報告者** 園では部落問題学習はやっていない。しかし、園だよりも人権に関することを書いたり、職員での人権劇もやったりしながら啓発をしている。サッカーは、味方がいて、相手がいてできるということを大事にしている。「上手、下手」ではなく楽しんでほしい。

**滋賀** (園の職員) その子をどのように見るかを大事にしながら保護者と話をしている。その子を肯定的に見るといふこと。子どもの言動の背景を考え、自分をふり返ってみるよう話している。

また、保護者の子育てが間違っていないことを伝え、否定的に答えないようにしている。

#### —総括討議—

**滋賀** 「自由保育で子どもが育つのか」と学校現場で話された。子どもを主体とした保育、子どもの自由を保障する保育をめざしてきて、今の保育指針では、その子にあったペースで保育を進めるように変わっている。個を大切に、「待つ」「見守る」ことで自己肯定感が育まれる。子どものどういう思いが行動に出たのか総合的に判断することで、保育者が自分の目線を見直す機会となる。それを保護者に伝え、学校へ伝えることができる就学前の現場でありたい。

**愛媛** 地区の中に保育園があって、保護者は差別を受けてきた。隣保館で学習しているが、学習していない地区から嫁いできた親が、子どもにいつ伝えるのか、いつ差別を受けるのかと心配している。差別に立ち向かうだけの力をつけていかなければならない。そういう声が出ないのか。

**報告者** (滋賀) 部落問題学習をやっていないのは当園の課題である。子どもたちには、人と人々が分断されてはならないという感覚を身につけてほしいと願っている。この課題についてみなさんと話して学んでいきたい。

**奈良** 親自身が子どもにどう伝えていくか悩んでいる。子どもにはタイミングがあって、うまく合えば伝えることができる。

**三重** 「いいところさがし」をしたり「できる、がんばる」と言う姿でないといけないのか。しんどくてもつらくても、ありのままの自分を受け入れていい、そんな先生や友だちに支えられることが生きていく力になると思う。園で年に3回「人権を語る会」を実施している。保護者の方から今どんな悩みやしんどさがあるのかを出してもらって話し合っている。今後は差別の現実にせまっていきたい。

**愛媛** 教職員や親が正しい人権感覚を磨いていく必要がある。園児も失敗から学んだりしながら人権感覚を養っていくようにしたい。

**愛媛** 滋賀の実践で、子どもたちは人権感覚を体で学んでいると思う。愛媛の実践では「小さいけんできんのよね」というつぶやきに気づいた職員の感覚、言える子どももすばらしい。ありのままを受け入れることの逆は「排除」だと思っているので、2つの実践に学ばせていただいた。

**滋賀** 「差別に立ち向かう」といつまで言わなければいけないのか。自分たちが広げていかないといけない。

#### —報告3—③⑤

認め合う保育とは～表現活動を通して～

(鹿児島県同教)

#### —主な質疑と意見—

**大阪** Aのどのようなところに心の不安、緊張、葛藤を感じていたのか。

**報告者** Aは人前で自分を出せない。Aにとって

は頑張りたくても本当は苦手なんだという葛藤を感じていた。

**鹿児島** 大人はいつから絵が描けなくなるのかと思ってきた。どういう言葉をかけていくと周りを気にせず描くようになるのか。子どもにどのような言葉かけをしているのか。

**報告者** 描いている途中の姿を見るようにしている。描きながら話すことに耳を傾けたり、絵についてたずねたりしている。

**滋賀** 毎年子どものつぶやきを歌にするのがステキで心に残る。なぜ歌にしたのか。子どもが絵を描きたくなるような経験を重ねていくために工夫していることは。

**報告者** つぶやきはわざわざ聞くものでなく、自然と出た言葉。「サークルタイム」でつぶやきを広げている。

**鹿児島** (園長) 学校教育では人間の評価は「できる、できない」という視点で行われる。子ども自身が「自分はダメなんだ」と考えるようになる。子どもが自分を輝かせるにはどうすればいいかということから表現活動に取り組むようになった。表現活動で子どもが語った言葉を書き留め、共感しながら、子どもが自分を認めていく。たまたま子どものつぶやきを歌にしてくれる人がいるので、その方をお願いしている。

**報告者** 保育者自身も楽しむことが大事だと思う。子どもが考えてやったことを私自身も試してみるようにしている。また、いくら汚れてもいいように大きな紙を用意している。

**奈良** 「こころカレンダー」を「おもいらい」と受けとめるような周りの子へのはたらきかけ、集団づくりをどのように進めているのか。

**報告者** 普段のつながりがなければそうならなかっただろう。遊びの中で、Aの発想のおもしろさに気づいて、受けとめていたのではないだろうか。

#### —報告4—③④

本当の思いに寄り添って (大阪府人連)

#### —主な質疑と意見—

**滋賀** Aにかかわる中で先生たちの葛藤、話し合ったことを教えてほしい。

**報告者** 園長や前担任に相談し、助けてもらいながら1年間頑張ることができた。

**大阪** 子どもが絵本を通して自分の気持ちを出せるようになってきている。その絵本を選んだ先生方の考えに学ばせてもらった。

**鹿児島** 母親の願いはどこにあるのか。母親はどうして変容していったのか。

**鹿児島** Aがもうそこにはいないことが気にかかる。その後のつながり、連携はどうなっているのか。

**報告者** あきらめずに声をかけ続けているうちに、母親に少しずつ変化がみられるようになった。

**大阪** (就学先の小学校校長) 母親も親せきの中で、地域の中で育ってきた。青少年センターの職

員と今もつながっている。そして、小中学校の仲間が支えてきた。

**滋賀** Aのことで地域の中でどういうはたらきかけをしたのか。

**報告者** 保護者の支え合いが強く、Aの母親の同級生やいっしょに泣いてくれる保護者の存在があった。

—報告5—⑨

このなかに さみしい人がおる～子どもたちのくらしと向きあって～ (奈良県人教)

—主な質疑と意見—

**奈良** Aのくらしから見えた課題を学級のどの子にも重ねるということについて話してほしい。Aを取り巻く差別の現実について教えてほしい。

**報告者** 差別の現実と言うのはAの姿。Aの生きにくさの中に差別の現実がある。他の子は何もないうちに見えてもいろいろなものを背負って学校に来ている。学校が子どもを枠にはめることをしていないか。子どもに変化があればどうしたのだろうと思わなければ。私たちが子どものくらしを見ないといけない。子どもたちが自分のくらしを会話から対話にしていかななくてはならない。

**滋賀** 「同僚に感謝したい」という教師集団に関する考えを教えてください。

**報告者** 子どもたちの具体的な姿を話し合えるような同僚になれた。「私が変わったから」と自分に返していくような授業づくりをしていく同僚たちがいる。

**滋賀** 自分がAのような子に出会ったときに、35年培ってきたものが崩れ落ちた。保育士としていろんな環境を整えるに当たって、人的環境を大事にしたい。その子の感性を捉える、ちょっとしたつぶやきを見逃さないような保育士でありたい。

**奈良** 自主公開、若い教師を巻き込む、Aが学校の宝になるといったことについてどのようにしていったらよいのかヒントをいただきたい。

**報告者** 「非行は宝」という言葉が大事にされている。教師は子どもにとことん困らなければならぬ。困ったというだけで次につながる。子どもの課題は子どもが悪いのではなく、私たちの課題に返していかなければならない。

**滋賀** 今のクラスでAとつながりのある子がいるか。大人がいるか。家と学校以外でAの居場所があるか。

**報告者** 今までつながらなかった子どもの家に遊びに行くようになった。Aがささくれた言葉に向けていたのは私だった。私たちは綴り方等から子どものことを探っていかなければならないと思う。

### Ⅲ 総括討論およびまとめ

**愛媛** Aは困った子ではなく、実はとても困っている子どもだった。このことに気づける感性が大事だ。心を揺さぶられた。

**奈良** 結婚のときにつれあいが同和地区出身ということで差別を受けた。両親が理解してくれず

家を飛び出すと、父は親戚を回って謝った。実家との付き合いができるようになったのは父が死ぬ間際だった。そういうつらい思いをする人を絶対につくりたくないという思いで教師をしている。若い人たちに育ってほしいと思っている。

**大阪** 部落問題をどう教えるかについて、乳幼児の時期に感性をどう育てていくのか。集団づくりにおいては関わり合うチャンスを日々つくるために当番活動にこだわっている。小集団の中で自分はこれがやりたいと言える力、自己主張したときはぶつかり合うチャンスで口を出さずに待つ。毎日の繰り返しの中で力を積み上げていくことができ、トラブルを解決する力を育てることができる。

**福岡** 地域で悪質な差別落書きがあった。これが差別の現実でこれからの取組にしていく。また、ヘイトスピーチについて研修を計画している。「これっておかしい、許せない」と怒り、憤りを持つような人権感覚を育てることが大事。県内でもベテランと若手の二極化が進んでおり、人権教育の優先順位も下がっている中、地区の人たちは先生たちに仲間になってほしいと頑張っている。若い人にしっかりと伝えていかなければならない。

**滋賀** 昨日から報告者の言葉へのこだわりを感じた。子どものつぶやきを大事にする教育者になっていきたい。一方で、絵本の読み聞かせについては、自分のこだわりだが、言葉にしない方がよいと思っている。乳幼児期の子どもに話し合いをさせても言葉を持たないとそこに主体性はない。言葉は大事だが、言葉にこだわりすぎないこと、見えるものだけにとらわれすぎないことを大事にしている。

**滋賀** 絵本を使って感性を育てることも大切であるし、たまたま子どもの姿とぴったりの絵本があつて、自分と同じだと言葉で表現できないことが絵本によって表現できたのが報告の例だと思う。

Aのような子どもの育ちを保障するために横と縦のつながりが必要で、だれかがつないでいき、地域の中で育てていくことで、その子の進路保障ができ、将来の力になっていく。

仲間づくりについて、自分の気持ちに折り合いをつけることを0歳児から学んでいる。ちょっぴりまんすとか相手を思いやることで集団として育てていく。子どものささやいた言葉を拾って全体に広げていくことで集団はまとまっていく。

保護者の集団が大事。地区であるかどうかにかかわらず仲間として支え合って学んでいける集団ができていく。

**大阪** 心理療育施設に勤めた。児童相談所が一時保護した子が来るところ。そこに来る子どもたちは報告にあった子と重なる。ほぼ虐待を受けた子たち。自分も何度も「死ぬ、死ぬ」と言われたが、刺激にとっても弱い。子どもは空気を吸うように人

権を吸うし、差別を吸う。もう一度、言語や食べ物などぐり直しをしなければならない。関わり続けることが大事で、つながれる人がいるのは力になる。

**滋賀** 伝える側の本気度が大事。仲間づくりとは仲間になっていくこと。

#### まとめ

2日間の議論の中で、次の数点について多くの意見が出され深められた。

まず、乳幼児教育の中で部落問題そのものについて学ぶことは難しいが、日々の生活の中で人権感覚を育てることが大事であるということ。そして、保護者が差別に再び向き合うのがこの時期で、保護者の中での学習が不可欠であるとともに保護者の仲間づくりを進めていく必要がある。保護者を支えることが子どもの育ちを保障することにつながる。

次に、子どものつぶやきを見逃さない感性を保育者、教育者が持つということである。言葉を大切にされた実践が多く報告された。また、子どものつぶやきを広げていくことで支え合う集団づくりを進めることができることが明らかにされた。

次に、教職員集団が学び合う集団へと変わることである。子どもについて語ることが職員の仲間づくりにつながる。また、横のつながりと共に乳幼児教育から小学校へ、さらに中学校へと縦のつながりをつくっていくことが大切である。

最後に、若い教職員に人権・同和教育の大事さを伝えていくことについて多くの意見が出された。

今回、朝鮮学校として初めて滋賀朝鮮初級学校が全同教大会の分散会会場となった。私たちは本校の教職員やPTAの方に温かく迎えられ、行き届いた配慮によって討議に集中することができた。また、参加者のみなさんが場所を譲り合い、終始温かい雰囲気の中で学び合うことができたのは、本校のみなさんの熱意によるものであると大変感謝をしていることを報告しておきたい。